

2022年4月27日発行

神奈川県イグレンの活動状況を伝える機関紙

## 神奈川県イグレンニュース〈第228号〉

発行：神奈川県異業種連携協議会（議長 金究武正）

発行責任者：専務理事 芝 忠 編集：事務局長 愛賢司

〒231-0015 横浜市中区尾上町580 神奈川中小企業センタービル7F

TEL/FAX045-228-7331 <http://www.kanagawa-igren.com>

### （目 次）

- イグレン主催講演会「V字回復ソニーのDNAと未来」 (1頁)  
- Bridge over COVID water -  
講師 株式会社ワンダーワークス代表取締役 田村慎吾 氏
- 【川崎異業種研究会通信】3月定例会 (3頁)
- 新会員紹介 (4頁)  
株式会社 JOINT ASIA 代表取締役 杉本希世志 氏
- 株式会社メジャーテックツルミ『57周年記念誌』紹介 (5頁)  
— はかりの道を歩んで — 1964～2021
- 「インターモールド2022 大阪」出展報告 まんてんプロジェクト (7頁)

# 神奈川県異業種連携協議会講演会

日時 2022年5月31日（火）午後2時半より

会場 神奈川中小企業センター13階第2会議室

後援 神奈川県中小企業家同友会

## 「V字回復ソニーのDNAと未来」

- Bridge over COVID water -

講師 株式会社ワンダーワークス代表取締役 田村慎吾 氏



早大理工学部でロボット工学習得、ソニー（株）入社、音響機器開発、CD-ROM開発、未来商品研究開発、パソコン系事業部長、二足歩行ロボット「キュリオ」開発等に携わる。ワンダーワークスを創業し、教育事業（慶應義塾大、早大、北大、湘北短大講師）、企業顧問約30社。

社会貢献事業として日本創造学会会長、NPO北海道活性化センターTactics副代表理事、アジアビジネス研究所副所長。

（著書）

- ・『二宮尊徳と創造経営』
- ・『未来人をつくるソニー的歩き方』
- ・『誰も書かなかった「世界のS」実践創業物語』
- ・『実践的MOTのススメ』

参加費 3,000円 交流会 4,000円

参加申し込み 1 講演会 2 交流会 \*○をお願いします。

(所属・氏名・TELご記入ください)

愛賢司 email [aikenji1024gmail.com](mailto:aikenji1024gmail.com) TEL070-4478-1902

ポストコロナは、どう生きますか？

ソニーは1946年8月、終戦を告げる玉音放送のすぐ後、全都焼け野原の中、疎開先の長野から上京した若者7人で起業しました。創業者井深大の夢は、大企業でも世界に出ることでもなく、社員が自分を活かし、夢中で働き、世の中がびっくりするようなものを開発する現場を創ることでした。そのため、世俗的な制約を全廃した現場を創りました。

その後、他社が諦めた技術を敢えて採用し、困難の谷に落ちたは這い上がる、そんな仕事を繰り返しました。作る目的は製品ではありません。製品を通して、全く新しい「生活」をお客様に提供することでした。その結果、喜ばれ、お金が流れ込んできて、気が付いたら世界的ブランドになりました。井深の口癖は、夢を持ちなさい。持てば必ず叶えられます」です。

かつて2000億円を超える巨額な赤字を抱え、経営危機に陥ったソニーが、V字回復した軌跡からポストコロナを展望します。

## 【川崎異業種研究会通信】 3月定例会

3月10日（木）当所にて3月定例会を開催した。今回は『アグリツーリズムの実践報告－SDGsの具体的な取り組み』と題して、当会副会長でもある和光大学の小林猛久教授が指導されているゼミナール2年生の学生方による産学連携活動成果発表が行われた。

当日学生は全員リモートにより参加し、大学が所在する岡上地区での「藍のたたき染め体験会」や「寺子屋おかがみ事業」、麻生区の市民プロジェクト「万福寺人参堀り体験」、ワイン醸造の絞り粕を活用した化粧品「バスソルト」などの取り組みについて発表がなされた。

参加した学生からは、地元の農家と子供・保護者との交流や市民団体との連携を通じた様々な体験談とともに、アグリツーリズムの実践により、SDGsの目標のうち、11番目「住み続けられるまちづくりを」、12番目「つくる責任、つかう責任」について具体的に取組んだ旨の報告がなされた。小林副会長からは、全体の講評とリモートによるゼミ運営や学生同士の交流等、コロナ渦における新しい形態での大学の取り組みについて報告がなされた。参加者からは、高評価が多く寄せられ、活発な定例会となった。



【和光大学小林猛久ゼミ生意見交換】



【和光大学小林猛久ゼミ生による発表】

## 外国人材‘コロナの崖’の前に確保戦略を！

近年日本では少子高齢化による人材不足で外国人の雇用が日常となってきましたが、コロナ禍のこの2年間でその外国人の新規入国者数は激減しました。2022年3月に入国制限の緩和され少しずつ戻り始めたものの、ここから数年は国内での外国人採用が難しくなると思っています。

…というのも、外国人採用市場の中心だった留学生は2021年12月の約34.5万人から2021年6月には約22.8万人に減少。留学生は入国から就業までのタイムラグがありますので、2年後以降、国内の外国人新卒就業者は激減することが予想されます。

一方、技能実習生の入国も大幅に減少しており、こちらはすでに製造現場を直撃しています。新たなビザ、‘特定技能’制度の開始で、技能実習生から切り替える人材が補っていますが、この2年間の空白の影響は来年以降に現れるでしょう。

このような状況下では、外国人の国内採用はハードルが上がってしまい、海外からの直接採用に頼るケースが増えるはずで、人材確保の戦略を早めに打っておくことを強くお勧めします。

当社は、採用ルート、在留資格、受入れ、教育など様々な面から 外国人材採用・定着をサポートします。お気軽にご相談ください。

【国籍】中国、ベトナム、フィリピン

【分野】◎ エンジニア（機械系、電気系、IT）

◎ オフィススタッフ、通訳

◎ 特定技能（金属加工、成形、食品加工等現場経験者、介護、飲食等のサービススタッフ等）

## 株式会社 JOINT ASIA

【事業紹介】

- 有料職業紹介事業（許可番号: 14-ユ-301720）
- 特定技能人材就業支援事業（登録番号: 21登-006749）
- 外国人に対する日本語教育、定着支援

【所在地】神奈川県横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センタービル7階

【連絡先(無料相談受付)】 080-4344-1628 担当 杉本

# 株式会社メジャーテックツルミ 『57周年記念誌』

— はかりの道を歩んで — 1964～2021

はじめに

## 第1章『継承』

## 第2章『28年間の戦い』

## 第3章『お世話になった方々へ』

## 第4章『メジャーテックはツルミは何のために戦ってきたのか?』

会長 横須賀健治インタビュー

### 『虚しさを感じた、当初の仕事』

創業当初の仕事は「汚い・キツイ・重労働」の三重苦。しかし何より辛かったのは、計量への意識の低さでした。「何のためにはかるのか?」という意識が、世間に浸透していなかったのです。「法律で決まっているから仕方なく点検する」という意識のお客様が多かったということです。自分たちの仕事が虚しく感じました。この頃感じた、「社会から必要とされる仕事がしたい」という感情は、私の原点の一つです。

### 『何と戦っていたのか?』

お客様のせいにははいけませんね。正しい計量の意義が世間に浸透しなかったのは、同業の人間にも非があると思います。当時の同業の間では談合や安売りが慣習化していました。技術力やサービスで差別化という発想が無かったのです。……

「関心を持たれていなかった計量の意義」「サービスより安さが優先の慣習」「大手メーカーに依存していた業界の体質」…これらの要素が混ざり合って、秤業界には古い土壌が築かれていました。振り返ってみると、私たちは決して同業他社と懸命に戦っていた訳ではなく、秤業界の下地になっていた古い土壌そのものと戦ってきたように思えます。

### 『秤の仕事の本質を捉え、誇りを胸に』

お客様は秤の数値をもとに仕事をしています。時には、重大な経営判断のもとになるかもしれません。もしその数値が間違っていたとしたら、お客様は進むべき道を間違えてしまいます。だから、正しい秤を提供することは当然の心がけです。…また、はかるとは「見える化」することです。見える化することによって必ずしも良い結果になるとは限りません。無駄が明らかになるかもしれません。間違いを明らかにすることも、秤の大切な使命です。

つまり、我々の仕事は経済活動に「秩序」をもたらすことなのです。…

我々の足元である京浜工業地帯は、日本有数の工業地帯です。その信頼と秩序を守っているという誇りを胸にメジャーテックツルミはこれからも仕事をしていきます。

## 第5章『未来へ』

### 社長 横須賀英樹インタビュー

#### 『これまでのメジャーを超えていけ！』

私が就任する前は、典型的なトップダウンの会社で、従業員が創意工夫する余地はありませんでした。私も含め、従業員は皆「言われたことをやっていけばいい」という考え方になり、社内の風通しは悪くなっていました。何より問題なのは、「トップダウン型の組織は、トップの器を超えない」ということです。技術課の人間は社長より技術に詳しいはずだし、営業の人間は社長より営業に詳しいはずです。トップの指示が無ければ動けないのはもったいない。それぞれの得意分野で私を超えて、エキスパートとして会社を動かして行ってほしいのです。各従業員・各部署が自分達で考えて動く、そんなメジャーテックツルミに変化していきましょう。

#### 『楽しく真剣にお客様の計装部門であれ』

これからのメジャーテックツルミは、楽しく真剣に仕事と向き合う組織を目指します。従業員が真剣に議論して、時にぶつかり合ったとしても、仕事を離れたら気持ちを切り替えて一緒に働く仲間として敬える。そんな関係です。また、お客様の工場の計装部門になったつもりで、お客様と共に考え、共に課題に臨みましょう。……まずは好奇心を育ててください。「工場は何をつくっているのか？」「お客様は何をしたいのか？」「現場でどのくらいの人が働いているのか？」「どんな設備があるのか？」日頃から工場の様子を良く観察し、お客様の話に耳を傾けることが大切です。……力を合わせて真剣に働いて、楽しく生きましょうよ。メジャーテックツルミの未来、お客様の未来、そしてあなたの未来を共に築いていきましょう。

#### 『三代目社長として・・・私の使命』

メジャーテックツルミの基盤を作ってくれた創業者と先代ですが、一方で経営的には厳しい現状もありました…。会社の経済状態を立て直すのが目下の課題でした。それから毎日、従業員から挙がってくる「見積り」「着工指示書」「成績書」に無駄遣いや赤字が無いか、全部チェック。毎日夜中の2時3時までかかりましたね。…。今では、収支がプラスにできたので、少しずつ返済できるようになっています。返済が終わったら、次は貯金でしょうね。今の社屋は築30年くらい。そろそろ建て替えるか移転するかの費用を貯め始めなきゃいけない。

その次には、いよいよ従業員や協力会社へ還元していきたいです。……………。

「日本は給料安いよね…」と世間が言っても、メジャーテックツルミの社員は「うちがいいですけどね」と言えるようにしたいものです。

(引用・編集 愛)

# 「インターモールド 2022 大阪」出展報告

まんてんプロジェクト事務局  
専務理事 愛恭輔

「インターモールド 2022 大阪」が4月20日(水)から4月23日(土)までインテックス大阪で開催されました。大阪展としては2018年以來4年ぶりの開催となりました。展示会場ではマシンングセンターや研削盤などの工作機械、切削や研削、放電などの加工技術、測定や表面性状に関する評価技術、設計や表面処理技術など生産技術に関わる機械や機器、加工サンプルなどが多く紹介されていました。近年、金属3D技術による「ものづくり」が積極的に取り組まれています。今回の展示会では出展企業は少ない感じがしました。



「まんてんプロジェクト」では、プロジェクトの取り組みと会員技術の紹介をするために呼びかけを行い、以下の10社が出展しました。

・**新日産ダイヤモンド工業(株)**

: ダイヤモンドブレードやダイヤモンドラッピングシート、開発した研磨工具等

・**鈴幸商事(株)**

: 各種ポリイミド成形体のサンプル等

・**大同工機(株)**

: CFRP用エンドミル、各種CFRP板やCFRPハニカム板の加工サンプル等

・**(株)東栄超硬**

: 各種の超硬治具や金型、高硬度SKD11やSKH治具のサンプル等

・**(株)トクピ製作所**

: 高圧給油装置による加工事例のビデオと供給圧による形成された切りくずの事例等

・**(株)NAKANO**

: 医療機器部品の加工品や難削材の小物部品の加工品、宇宙エレベータのクライマー等

・**ユシロ化学工業(株)**

: 各種加工油剤のパネルによる紹介、ウイザードエラストマーとゲルの開発品サンプル等

・**第一塗装工業(株)**

: 塗装品の加工工程の例示品と特殊塗料による部品のサンプル等

・**(株)プライオリティ**

: 自社開発の磁気研磨装置により研磨された小物部品と微小バリ除去品のサンプル等

・**(株)平本精機**

: 各種樹脂および金属の加工部品のサンプル等

各出展企業のブースでは、企業の紹介パネルや製品サンプル、得意技術を紹介しながら来場者と意見交換が行なわれ、ビジネスに結びついた案件もありました。

まんてんプロジェクト事務局関連では、「まんてんプロジェクト」を紹介したパネルの展示や希望された会員企業のカタログの展示を行いました。

4日間の来場者は、併設された金型展と金属プレス加工技術展と併せ 23,875 名でした。

なお、7月6日(水)から7月9日(土)までポートメッセ名古屋でインターモールド 2022 名古屋が開催されます。「まんてんプロジェクト」も出展し、展示を希望された会員企業の方々と共に来場者と積極的に意見交換を行ってビジネス展開を進めようと思っています。出展の申し込みは終わっていますが、出展を希望する会員企業がありましたら事務局へご連絡ください。(APTES 技術研究所 046-871-7520)



まんてんプロジェクト事務局



まんてんプロジェクトのブースの様子です。

